第４次厚真町総合計画　実施計画シート

事業名	食生活改善推進員活動事業	担当課		担当グループ		作成者（職・氏名）	実施計画年度（期間）	事業評価対象年度
		3	住民課	35	健康推進グループ	主事・船戸　佑香	R　7　年度（　R7 ～　R9　）	R　6　年度

1　基本事項

事業区分	事業開始年度	平成　28　年度	事業主体		会計区分		予算科目 款	項	目	事業１	事業２	性質別経費
	事業終了年度	令和　7　年度	1	町	1	一般	04	01	03	0430	001	

事業の性質	法令に基づく義務的事業	条例等の有無	有
根拠法令・例規計画等	厚真町補助金交付規則		

区分	項目	番号	内容
総合計画	基本目標	2	健やかで安心なあつま
	基本施策	8	保健・医療の充実
	施策項目	81	健康増進事業の推進
	復旧・復興計画	99	その他
	総合戦略	99	その他
	厚真町強靭化計画	9999	その他
政策展開方針（R2～R6）	大項目	9	その他
	中項目	9	その他
	施策項目	9999	その他

2　事業概要（Plan）

事業の目的	食生活改善推進員の活動支援。専門職のみならず、住民に身近な食生活改善推進員が住民に身近な地域で活動することにより、健康課題解決を図る。
事業の内容（手段・方法等）	①健康と栄養改善を図る為の学習会の開催 ②厚真町の補助金等交付規則に基づいた補助金の交付 ③栄養、食生活改善普及のための技術支援
対　象	厚真町食生活改善推進協議会
成果目標	①厚真町食生活推進協議会学習会、普及活動を強化し、会の活性化を図る ②栄養、食生活改善普及のための技術支援の資質向上を図る

3　実施結果（Do）

①　事業費

単位：千円

事業費の推移	H28（前期1）決算・決算見込み・予算・計画	H29（前期2）決算・決算見込み・予算・計画	H30（前期3）決算・決算見込み・予算・計画	R1（前期4）決算・決算見込み・予算・計画	R2（前期5）決算・決算見込み・予算・計画	R3（後期1）決算	R4（後期2）決算	R5（後期3）決算	R6（後期4）決算	R7（後期5）予算
事業費						240	250	400	550	400
特定財源 国支出金										
特定財源 道支出金										
特定財源 町債										
特定財源 その他										
一般財源						240	250	400	550	400
人件費（@4,300*時間数）						3,635	3,635	3,635	3,635	3,635
積算根拠										R7年度から食生活改善事業に集約（400千円）
主な年次計画（取組）										
ヒアリング指示事項 ※企画調整G記入欄										

②　実績・成果

指標名称（前期）			H28（前期1）		H29（前期2）		H30（前期3）		R1（前期4）		R2（前期5）		R3（後期1）		R4（後期2）		R5（後期3）		R6（後期4）		R7（後期5）	
			数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位
主な活動指標	学習会開催回数	目標	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回
		実績	3	回	3	回	1	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回		回
		達成度	100	%	100	%	33	%	100	%	100	%	100	%	100	%	100	%	100	%	0	%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する																					
主な成果指標	推進員人数	目標	43	人	43	人	43	人	43	人	43	人	43	人	43	人	31	人	31	人	28	人
		実績	38	人	35	人	30	人	32	人	31	人	31	人	31	人	31	人	31	人		人
		達成度	88	%	81	%	70	%	74	%	72	%	72	%	72	%	100	%	100	%	0	%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する																					

4　事業の評価（Check）

評価項目	評価の視点	評価結果	説明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	A	学童期から高齢期と幅広い年代に対して食育、栄養、食生活改善に関するアプローチをしている団体であり、町の健康課題解決に繋がる活動であることから、本団体への補助事業は妥当である。また、同一の目的を有する任意団体は町内に存在せず、健康課題解決ために町が養成した方が食生活改善推進員として登録する団体であることから公平性も保たれている。
有効性	期待された成果が得られたか？	A	食生活改善推進員として、質の高い活動が維持できるよう食生活改善推進員を対象とした学習会回数は維持されている。また、活動に必要な食生活改善推進員の人数も維持されていることから期待する成果は得られている。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	A	現在の本事業における職員人区は0.5であるが、本協議会事業数は、R6年度25回であり、1回平均5名の推進員が活動をしている。健康課題解決のため、これらの事業を健康推進G職員のみで担うと想定した場合、現在の人件費を大きく上回る。また、補助対象経費には食材費が含まれているが、物価高騰の影響もあるため、適正である。

※評価結果は、A：妥当である　B：概ね妥当である　C：あまり妥当でない　D：妥当でない　で評価する

5　今後の方向性・課題・改善提案等（Action）

予算	継続（現状維持）	サービス	継続（現状維持）	方向性	現状維持
理由	町民への食育や健康づくりの普及啓発を活動内容とする団体である。地域住民である食生活改善推進員が、地域に根差した活動をすることにより、地域住民が身近に各種事業に参加することができていると考える。また、食生活改善推進員の平均年齢は72歳と高齢であるにも関わらず、積極的に活動されており、本活動そのものが、参加住民のみならず、食生活改善推進員の社会参加の場、健康づくりの場として位置づけられており、事業効果は大きいものと考え、継続すべき事業である。				
課題および改善提案	食生活改善推進員の高齢化に伴い、会員数の減少が進行すれば、事業継続に必要な人員を維持することができず、事業実施に影響を与える可能性がある。また、そのことで事務局の業務負担に繋がり、事業縮小をせざる得なくなると、健康課題解決の方針変更が必要になる。これらから、新規食生活改善推進員の養成について検討が必要である。				

※予算・サービスは「継続（拡大・現状維持・縮小）」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択する。

6　内部評価（本欄は、内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。）

予算	継続（現状維持）	サービス	継続（現状維持）	方向性	現状維持	意見	担当課の評価に対して異存なし。今後の方向性・課題・改善提案等について、提案のとおり新規食生活改善推進員の養成について検討が必要。

7　外部評価（本欄は、外部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。）

評価実施年月日	R　8　年　1　月　28　日	予算	継続（現状維持）	サービス	継続（現状維持）	方向性	拡大
付帯意見（全体意見）	○食生活改善推進員の高齢化と新規推進員確保が喫緊の課題となっている事業である。 ○健康寿命延伸や食育推進において重要な役割を担っており、組織の若返りと活動の活性化が必要である。 ○男性や退職世代など新たなターゲット層への働きかけにより、裾野を広げることが求められる。 ▶以上から、予算・サービスを現状維持とし、方向性を拡大のうえ事業を継続することが望ましい。						
その他意見（個別意見）	○養成講座の開催や準会員制度の導入など、推進員確保の新たな仕組みづくりが必要である。 ○多様化する住民ニーズに応じた活動内容の工夫が望ましい。 ○活動内容のSNS発信など、若い世代に訴求する広報手法の導入が期待される。 ○学校・子育て支援・地域食堂等との連携により、次世代参加の導線を拡充していくことが期待される。						

8　外部評価に対する町の考え方

回答年月日	R　8 年　3 月　18 日
○規推進員確保が喫緊の課題であるという点については、現食生活改善推進員の意向も大事にしつつ、国の示す食生活改善推進員養成カリキュラムに限らない町独自の準会員制度の導入等を含めて検討してまいります。 ○ここ数年町に新たに立ち上がった住民組織や新規参入した関係機関等との連携により、本課題が解決できないかを含めて視野を広げて検討を進めてまいります。	